

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 市の中心拠点（長田・荒本駅周辺エリア）は「関西の中心」として広域・近隣から人が集まる場所となるエリアとして位置付けられているが、広幅員道路によって分断されており回遊性がない
- 駅から事業所への通勤の足が無い
- 荒本駅周辺エリアには商業施設が無い
- 交通事業者は運転手不足等の課題を抱えており、市内でもバス路線の減便・休止等の影響が大きい

将来像

- 通勤・通学・生活の移動手段を確保し、エリア内の回遊性を確保することにより、市の中心拠点エリアに人の流れと賑わいを創出する
- 交通事業者の運行コストを削減することで、安定した操業環境をつくると共に、地域へ良好な労働環境を提供することで持続可能な操業環境を実現する

推進体制

名称：東大阪市未来技術地域実装協議会
(東大阪市自動運転バス社会実装推進コンソーシアム)

地方公共団体	大阪府東大阪市
国（★は現地支援責任者）	国土交通省（★近畿運輸局、近畿地方整備局）、警察庁（交通局）、内閣府（地方創生推進事務局）
大学等	大阪大学、近畿大学
民間事業者	大阪バス株式会社、大阪機械卸業団地協同組合、大阪メルカート協同組合、協同組合大阪紙文具流通センター、大和リース株式会社大阪本店、南海電気鉄道株式会社
地域住民	意岐部校区自治連合会、楠根校区自治連合会、弥栄校区自治連合会

課題解決に向けた取組

(図：東大阪市提供)

産学官連携によるコンソーシアムを立ち上げ、完全民間事業による自動運転バスの商業運行を実現

⇒市の中心拠点の回遊性を確保し、エリアに賑わいを創出

①自動運転バス【自動運転】

- ・自動運転バスの完全「民間事業」による自動運転レベル4の商業運行
- ・自動運転バスには、貨客混載を組み合わせ、地域の商業事業者の担い手不足も解消
- ・民間事業者の実施している社会実験「自動貨物輸送ロボット」へ自動運転のシステム共有化



【レベル4での自動運転バスの実装対象区域】市の中心拠点（長田・荒本駅周辺エリア）